

**Oracle® Server X5-2L Oracle VM インス
トールガイド**

ORACLE®

Part No: E58203-01
2014 年 10 月

Part No: E58203-01

Copyright © 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	7
製品ドキュメントライブラリ	7
Oracle サポートへのアクセス	7
ドキュメントのアクセシビリティ	7
フィードバック	7
Oracle VM のインストールについて	9
Oracle VM Server のインストールのタスクマップ	9
サポートされている Oracle VM ソフトウェア	10
Oracle VM Server のインストールオプション	11
単一サーバーへのインストール方法	12
Oracle VM Server の補助付きインストール	12
Oracle VM Server の手動インストール	13
Oracle VM をインストールするための準備	15
ブート環境の準備	15
▼ BIOS の最適なデフォルト値を確認する	16
▼ ブートモードを設定する	17
ホストコンソールへのアクセス	20
▼ ローカルグラフィックスモニターを使用してホストコンソールにア クセスする	20
▼ Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスを使用してホスト コンソールにアクセスする	20
ブートメディアの準備	21
▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する	21
▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する	22
インストール先の準備	23
インストール先のオプション	23
▼ ローカルストレージドライブ (HDD、SSD、または RAID ボリューム) をインストール先として設定する	24

▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する	24
Oracle VM のインストール	27
準備作業	27
Oracle System Assistant を使用した Oracle VM Server の単一システムへのインストール	28
▼ Oracle System Assistant を使用して Oracle VM Server をインストールする	28
メディアを使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール	33
▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle VM をインストールする	33
Oracle VM Server のインストール後のタスク	37
Oracle VM ソフトウェアを更新する	37
Oracle VM のリソースを管理する	37
ネットワークインタフェースの構成	39
NIC コネクタ	39
索引	41

このドキュメントの使用方法

- **概要** – このインストールガイドでは、Oracle VM Server ソフトウェアのインストール手順と、Oracle の Oracle Server X5-2 を構成可能かつ使用可能な状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。
- **対象読者** – 技術者、システム管理者、認定サービスプロバイダ、およびユーザー。
- **必要な知識** – オペレーティングシステムのインストール経験。

製品ドキュメントライブラリ

この製品の最新情報や既知の問題は、ドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/X5-2/docs>) に含まれています。

Oracle サポートへのアクセス

Oracle サポートサービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> を参照してください。聴覚に障害をお持ちの場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのアクセシビリティ

アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについては、Oracle Accessibility Program の Web サイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>) を参照してください。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

Oracle VM のインストールについて

このセクションでは、サーバーに Oracle VM をインストールするための概要について説明します。

説明	リンク
Oracle VM Server ソフトウェアのインストール手順を確認します。	9 ページの「Oracle VM Server のインストールのタスクマップ」
Oracle VM Server のどのソフトウェアバージョンがサポートされているかを確認します。	10 ページの「サポートされている Oracle VM ソフトウェア」
Oracle VM Server のインストールオプションを確認します。	11 ページの「Oracle VM Server のインストールオプション」

関連情報

- [27 ページの「Oracle VM のインストール」](#)

Oracle VM Server のインストールのタスクマップ

次の表では、Oracle VM Server をインストールするための高レベルの手順について説明します。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、サービスプロセッサを構成します。	<ul style="list-style-type: none">■ 『Oracle Server X5-2L 設置ガイド』の「サーバーのラックへの設置」■ 『Oracle Server X5-2L 設置ガイド』の「サーバーの配線」■ 『Oracle Server X5-2L 設置ガイド』の「Oracle ILOM への接続」
2.	サーバー上でサポートされている Oracle VM Server のバージョンを確認します。	10 ページの「サポートされている Oracle VM ソフトウェア」
3.	静的 IP アドレスを使用して、Oracle VM Manager をインストール可能な 2 番目のシステムを設定します。このシステムには、次の	http://docs.oracle.com/cd/E50245_01/index.html にある Oracle VM リリースノート (リリース 3.3)、Oracle VM インストールおよびアッ

手順	説明	リンク
	<p>いずれかのオペレーティングシステムがインストールされている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Linux 5 Update 5、64 ビット以降のリリース ■ Oracle Linux 6、64 ビット以降のリリース ■ Red Hat Enterprise Linux 5 Update 5、64 ビット以降のリリース ■ Red Hat Enterprise Linux 6、64 ビット以降のリリース 	<p>ブグレードガイド (リリース 3.3)、および Oracle VM ユーザーズガイド (リリース 3.3)</p>
4.	<p>Oracle VM Server のインストールメディアおよび Oracle VM のドキュメントを入手します。Oracle VM のドキュメントを、このガイドで説明されているインストール手順とともに使用するように入ってください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle VM Server インストールプログラムの ISO イメージは、http://edelivery.oracle.com/oraclevm からダウンロードできます。 <p>Oracle VM Server ISO イメージを CD からインストールする場合は、Oracle VM Server ISO ファイルをブート可能な CD に書き込みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle VM のドキュメントは、次の Web サイトから入手できます。 <p>http://docs.oracle.com/cd/E50245_01/index.html</p>
5.	<p>サーバーのプロダクトノートを確認します。</p>	<p>http://www.oracle.com/goto/X5-2/docs にある『Oracle Server X5-2 プロダクトノート』</p>
6.	<p>インストールの実行に使用するブート環境、コンソール、ブートメディア、およびインストール先を設定します。</p>	<p>on page 15“Oracle VM をインストールするための準備”</p>
7.	<p>Oracle VM Server、および必要に応じて Oracle VM Manager をインストールします。</p>	<p>Oracle VM Server と Oracle VM Manager の両方をインストールする手順については、27 ページの「Oracle VM のインストール」を参照してください。</p>
8.	<p>インストール後のタスクを実行します (該当する場合)。</p>	<p>37 ページの「Oracle VM Server のインストール後のタスク」</p>

サポートされている Oracle VM ソフトウェア

サーバーでは、次の Oracle VM ソフトウェアをサポートしています。

VM ソフトウェア	エディション
Oracle VM	リリース 3.3

注文時に Oracle VM ソフトウェアをサーバーにプリインストールするよう依頼した場合は、出荷時に Oracle VM 3.3 がプリインストールされています。Oracle VM ソフトウェアがサーバーにプリインストールされているが、それを使用しない場合は、サポートされているその他のオペレーティングシステムや仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールできます。サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、<http://www.oracle.com/goto/X5-2/docs> にある最新バージョンの『Oracle Server X5-2 プロダクトノート』を参照してください。

Oracle Solaris ハードウェア互換リスト (HCL) には、Oracle ハードウェアでサポートされている最新のオペレーティングシステムバージョンが示されています。サーバーでサポートされている最新の Oracle VM バージョンを見つけるには、次のサイトにアクセスして、使用しているサーバーのモデル番号を使用して検索してください。 <http://www.linux.oracle.com/pls/apex/f?p=117:1:3991604960223967>

注記 - Oracle VM Server がプリインストールされていた場合、それは、サーバーがレガシー BIOS ブートモードに設定された状態でインストールされたものです。サーバーを UEFI ブートモードでブートすることを選択した場合、プリインストールされたイメージはアクセス不可能となり、使用できません。Oracle VM Server は、UEFI ブートモードをサポートしません。

関連情報

- [27 ページの「Oracle VM のインストール」](#)

Oracle VM Server のインストールオプション

Oracle VM Server を単一サーバーまたは複数のサーバーのどちらかにインストールするかを選択できます。このドキュメントの範囲は、単一サーバーへの Oracle VM Server のインストールです。次の表に、2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用して、複数のサーバーにオペレーティングシステムをインストールできます。詳細は、 http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html を参照してください。
単一サーバー	次のいずれかの方法を使用して、Oracle VM Server を単一サーバーにインストールします。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ローカル: サーバーへの物理アクセスを使用して Oracle VM Server のインストールを実行します。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。 ■ リモート: リモートの場所から Oracle VM Server のインストールを実行します。このオプションでは、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用して Oracle System Assistant にアクセスするか、Oracle VM Server の手動インストールを実行します。

オプション	説明
	注記 - 単一のサーバーに Oracle VM Server をインストールする場合は、Oracle System Assistant を使用するようにしてください。

単一サーバーへのインストール方法

Oracle VM Server のインストールメディアを提供する方法を選択します。次の情報を使用して、ニーズにもっとも適した Oracle VM Server のローカルまたはリモートインストールを決定してください。

メディアの提供方法	その他の要件
ローカルでの補助付き Oracle VM Server インストール - Oracle System Assistant を使用します。	モニター、USB キーボード、USB マウス、Oracle System Assistant USB ドライブ、および Oracle VM Server インストーラの ISO イメージ。詳細は、 12 ページの「Oracle VM Server の補助付きインストール」 を参照してください。
リモートでの補助付き Oracle VM Server インストール - Oracle System Assistant を使用します。	Web ブラウザ、Oracle VM Server インストーラの ISO イメージへのアクセス、およびサーバーの管理ポート (NET MGT) へのネットワークアクセスを備えたリモートシステム。詳細は、 12 ページの「Oracle VM Server の補助付きインストール」 を参照してください。
CD/DVD ドライブを使用した Oracle VM Server のローカルインストール - サーバーに接続された物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボード、USB マウス、CD/DVD ドライブ、および CD/DVD 上の Oracle VM Server インストーラの ISO イメージ。詳細は、 13 ページの「Oracle VM Server の手動インストール」 を参照してください。
CD/DVD ドライブまたは CD/DVD ISO イメージを使用した Oracle VM Server のリモートインストール - Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを実行しているリモートシステム上で、リダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	Web ブラウザ、接続された物理 CD/DVD ドライブ、CD/DVD 上の Oracle VM Server インストーラの ISO イメージ、およびサーバーの管理ポート (NET MGT) へのネットワークアクセスを備えたリモートシステム。詳細は、 13 ページの「Oracle VM Server の手動インストール」 を参照してください。
PXE イメージ - サーバー PXE (Preboot eXecution Environment) を使用して、ネットワークインタフェースから ESXi インストーラを起動します。	ESXi のインストールイメージを含む PXE サーバー。 注記 - PXE による ESXi のインストールイメージのブートについては、このドキュメントで説明しません。PXE による ESXi インストーラのブートについては、VMware vSphere ESXi および vCenter Server 5.5 のドキュメントを参照してください。

Oracle VM Server の補助付きインストール

この方法では、Oracle System Assistant を使用します。Oracle VM Server のインストールメディアを、ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、CD/

DVD イメージのいずれかで提供します。Oracle System Assistant がインストールプロセスをガイドします。Oracle System Assistant は、使用しているサーバーでサポートされている必要があります、そのサーバーにインストールされている必要があります。

Oracle VM Server の手動インストール

この方法では、Oracle VM Server の配布メディアを、ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、CD/DVD イメージのいずれかで提供します。また、必要なドライバをすべてインストールすることも必要です。サーバー用のドライバは、サーバー内蔵の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ(ドライバへのアクセスを可能にするために取り付けが必要)に用意されており、My Oracle Support Web サイトから OS 固有またはサーバー固有のパッケージとして、または ISO イメージファイルとして入手することもできます。Oracle VM Server をインストールするには、この配布メディアのインストールウィザードを使用します。

Oracle VM をインストールするための準備

このセクションでは、Oracle VM のインストールのために環境を準備する方法について説明します。

説明	リンク
BIOS を最適なデフォルト値に設定し、ブートモードがレガシー BIOS に設定されていることを確認します。	“ブート環境の準備” on page 15
ホストコンソールにローカルまたはリモートでアクセスします。	“ホストコンソールへのアクセス” on page 20
ブートメディアを準備します。	“ブートメディアの準備” on page 21
インストール先を準備します。	“インストール先の準備” on page 23

関連情報

- [「Oracle System Assistant を使用した Oracle VM Server の単一システムへのインストール」 28 ページの](#)
- [「メディアを使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール」 33 ページの](#)

ブート環境の準備

Oracle VM Server をインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように BIOS 設定が構成されていることを確認してください。BIOS 設定ユーティリティで、ブート順序やブートモードなどの BIOS 設定を変更できます。

次のトピックでは、インストールをサポートするように BIOS を構成する方法について具体的に説明しています。

- [“BIOS の最適なデフォルト値を確認する” on page 16](#)
- [“ブートモードを設定する” on page 17](#)

ブートプロパティの変更の詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

▼ BIOS の最適なデフォルト値を確認する

Note - サーバーが新しく設置され、オペレーティングシステムがはじめてインストールされた場合は、おそらく BIOS がそのデフォルト設定に構成されているため、このタスクを実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティーでは、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。最適なデフォルト値を設定することによって、既知の適切な構成によるサーバーの効率的な動作が保証されます。最適なデフォルト値は、『Oracle Server X5-2 サービスマニュアル』で確認できます。

BIOS 設定ユーティリティーで (F2 キーを使用して) 行なった変更はすべて、次回に変更されるまで常時使用されます。

F2 キーを使用して BIOS 設定を表示または編集するだけでなく、ブートプロセス中に F8 キーを使用して一時ブートデバイスを指定することもできます。F8 キーを使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスでブートしたあとは、F2 キーを使用して指定した常時ブートデバイスが有効になります。

開始する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- サーバーにハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が搭載されています。
- サーバーに HDD または SSD が正しく取り付けられています。手順については、[Oracle Server X5-2L サービスマニュアルの“ストレージドライブおよび背面ドライブ \(CRU\) の保守”](#)を参照してください。

1. ホストコンソールにアクセスします。

手順については、“[ホストコンソールへのアクセス](#)” on page 20を参照してください。

2. サーバーの電源を入れるか、リセットします。

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」を選択し、次に 「Select Action」 リストボックスから 「Reset」 を選択します。
- **Oracle ILOM コマンド行インタフェースから**、 「reset /System」 と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



Note - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。これらのメッセージは画面に表示される時間が短いため、注意してください。

3. **BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。**
しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。
4. **F9 キーを押して、最適なデフォルト設定を自動的にロードします。**
「OK」を選択してこの操作を続行するか、「CANCEL」を選択してこの操作を取り消すよう求めるメッセージが表示されます。
5. **メッセージの「ok」を強調表示して、Enter キーを押します。**
6. **変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。**
あるいは、「Save & Exit」メニューから「Save and Reset」を選択できます。

▼ ブートモードを設定する

サーバーには、レガシー BIOS と UEFI の両方のブートモードをサポートする Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) が装備されています。デフォルトでは、レガシー BIOS ブートモードが有効になります。

Oracle VM Server は、UEFI ブートモードをサポートしません。そのため、ブートモードがレガシー BIOS に設定されていることを確認する必要があります。ブートモードを確認または変更するには、次の手順を参照してください。

1. ホストコンソールにアクセスします。

手順については、“[ホストコンソールへのアクセス](#)” on page 20を参照してください。

2. サーバーの電源を入れるか、リセットします。

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- ローカルサーバーで、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- Oracle ILOM Web インタフェースから「Host Management」->「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- Oracle ILOM コマンド行インタフェースから、「reset /System」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



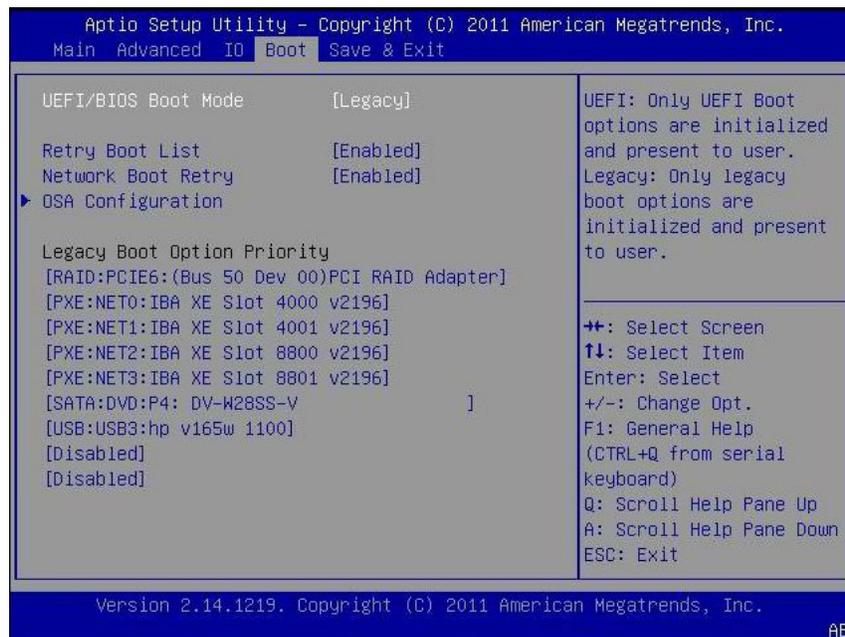
Note - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。これらのメッセージは画面に表示される時間が短いため、注意してください。

3. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

4. BIOS 設定ユーティリティで、矢印キーを使用して「Boot」メニューに移動します。

「Boot」メニューが表示されます。「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドに現在のブートモードが表示されます。



Note - ブート順序リスト内のオプションは、ストレージドライブ構成や、永続ブートサポート機能を有効にしているかどうかによって異なります。永続ブートサポートの詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にあるOracle X5 シリーズサーバー管理ガイドを参照してください。

5. ブートモードを変更するには、次の手順を実行します。
 - a. 「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、Enter キーを押します。
 - b. 優先使用するブートモードを選択し、Enter キーを押します。

Note - Oracle VM は、UEFI ブートモードをサポートしません。

6. F10 キーを押して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了します。

ホストコンソールへのアクセス

Oracle VM Server インストールウィザードを表示するには、ローカルまたはリモートのどちらかでホストコンソールにアクセスする必要があります。このセクションでは、ホストからグラフィカルな出力を表示する手順について説明します。

- [“ローカルグラフィックスモニターを使用してホストコンソールにアクセスする” on page 20](#)
- [“Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスを使用してホストコンソールにアクセスする” on page 20](#)

▼ ローカルグラフィックスモニターを使用してホストコンソールにアクセスする

1. **VGA** モニターをサーバーの **VGA** ポートに接続します。
2. **USB** キーボードおよびマウスをサーバーの **USB** コネクタに接続します。

関連情報

- [Oracle Server X5-2L 設置ガイド](#) の“サーバーの配線”

▼ Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスを使用してホストコンソールにアクセスする

次の手順では、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用してリモートシステムからホストコンソールにアクセスする方法について説明します。Oracle ILOM にリモートでログインするには、サーバーのサービスプロセッサ (SP) の IP アドレスを確認する必要があります。手順については、[Oracle Server X5-2L 設置ガイド](#) の“[リモート Ethernet 接続を使用した Oracle ILOM へのログイン](#)”を参照してください。

1. サーバーのネットワーク管理ポート (**NET MGT**) へのネットワークアクセスを備えたリモートシステム上で、**Web** ブラウザを開きます。
2. アドレスバーにサーバー **SP** の **IP** アドレスを入力し、**Enter** キーを押します。
3. **Oracle ILOM Web** インタフェースにログインします。

デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root であり、デフォルトのパスワードは changeme です。

「Oracle ILOM Summary Information」ページが表示されます。

4. 「Actions」パネルで、「Remote Console Launch」ボタンをクリックします。Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラス画面が表示されます。詳細は、Oracle Server X5-2L 設置ガイドの“グラフィカルリモートホストコンソールにアクセスする (Web)”を参照してください。

関連情報

- Oracle ILOM 3.2 ドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs>)

ブートメディアの準備

Oracle VM Server インストーラのイメージには、ローカルまたはリモートのどちらかでサーバーからアクセスできる必要があります。次のセクションでは、Oracle VM Server インストーラのブートメディアを準備する方法について説明します。

- “ローカルインストール用のブートメディアを設定する” on page 21
- “リモートインストール用のブートメディアを設定する” on page 22

▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する

1. CD/DVD バーナーを備えたシステム上で、Oracle Software Delivery Cloud Web サイト (<http://edelivery.oracle.com/oraclevm>) から Oracle VM Server インストーラの ISO イメージをダウンロードします。
2. ISO イメージを CD または DVD に書き込みます。
3. Oracle VM Server インストール CD または DVD をサーバーに接続された DVD ドライブに挿入します。
 - サーバーにオプションの DVD ドライブが装備されている場合は、サーバーのフロントパネルにある DVD ドライブにインストールメディアを挿入します。
 - サーバーに DVD ドライブが装備されていない場合は、サーバーのいずれかの USB ポートに DVD ドライブを接続し、そのドライブにインストールメディアを挿入します。

サーバーにローカルデバイスを接続する方法については、[Oracle Server X5-2L 設置ガイド](#)の“サーバーの配線”を参照してください。

▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する

1. サーバーのネットワーク管理ポート (NET MGT) へのネットワークアクセスを備えたリモートシステム上で、Oracle Software Delivery Cloud Web サイト (<http://edelivery.oracle.com/oraclevm>) から Oracle VM Server インストーラの ISO イメージをダウンロードします。

あるいは、次のいずれかを実行できます。

- インストールイメージを CD または DVD に書き込んでから、そのインストールメディアをリモートシステムに接続された DVD ドライブに挿入します。
- インストールイメージをネットワーク上の別の場所にダウンロードしてから、NFS または Samba プロトコルを使用して、そのイメージをサーバーのサービスプロセッサにリダイレクトします。

ネットワーク上の別の場所からの ISO イメージのリダイレクトについては、『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』の Oracle ILOM リモートデバイスのセクション、または「Oracle ILOM Remote Control」->「Host Storage Device」Web インタフェースページにある「More Details」リンクを参照してください。

2. リモートシステム上で Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスを起動します。

手順については、“[Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスを使用してホストコンソールにアクセスする](#)” on page 20を参照してください。

3. Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションの「KVMS」メニューで、「Storage」を選択します。

「Storage Devices」ダイアログボックスが表示されます。

4. 「Storage Devices」ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- a. 「SSL Enabled」を選択解除し、「Add」をクリックします。

「Add Storage Devices」ダイアログボックスが表示されます。

- b. ISO イメージを参照して選択し、「Select」をクリックします。

そのイメージファイルが「Storage Devices」ダイアログボックスに表示されます。

- c. ISO イメージを選択し、「Connect」をクリックします。

ISO イメージがリモートコンソールにマウントされ、OS インストールの実行に使用できるようになります。

インストール先の準備

Oracle VM Server インストーラをブートする前に、インストール先を選択して準備します。

- “インストール先のオプション” on page 23
- “ローカルストレージドライブ (HDD、SSD、または RAID ボリューム) をインストール先として設定する” on page 24
- “ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する” on page 24

インストール先のオプション

組み込み型の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (Oracle System Assistant 用に予約されています) と、サーバーのフロントパネルにあるオプションの NVM Express ドライブを除き、サーバーに取り付けられたどのストレージドライブにもソフトウェアをインストールできます。ハードディスクドライブ (HDD)、半導体ドライブ (SSD)、および RAID ボリュームは、Oracle VM Server の有効なインストール先です。

ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けのファイバチャネルストレージデバイスにインストールするよう選択できます。

重要: 内蔵の組み込み型 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブは、ブート用またはストレージ用のドライブとしては使用しないでください。

サーバーは、組み込み型 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを装備した状態で出荷されます。このドライブには、Oracle System Assistant、デバイスドライバのほか、Oracle ILOM、BIOS、およびサポートされている IO デバイス用のファームウェアが含まれています。サポートされるすべてのオペレーティングシステムのインストール中に、この USB フラッシュドライブは、読み取り/書き込み可能な単一パーティションを持つ SCSI ディスクとして検出され、ドライブのリストに Oracle [lowbar]SSM と表示されます。次の操作を実行するときに、このデバイスを上書きしないように注意してください。

- オペレーティングシステムのインストール
- ディスクまたはパーティションのフォーマット操作
- 一般的なディスク、パーティション、またはファイルシステムの保守

この USB フラッシュドライブが上書きされた場合でも、元の内容を復元できます。USB フラッシュドライブの内容を復元するには、Oracle System Assistant 回復および ISO 更新イメージを取得し、それを使用して復元操作を実行します。

Oracle System Assistant 回復および ISO 更新イメージをダウンロードし、Oracle System Assistant フラッシュドライブを復元する手順については、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイドを参照してください。

▼ ローカルストレージドライブ (HDD、SSD、または RAID ボリューム) をインストール先として設定する

1. ターゲットのハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が正しく取り付けられ、電源が入っていることを確認します。
HDD または SSD の取り付けおよび電源投入の詳細は、[Oracle Server X5-2L サービスマニュアル](#) の“ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守”を参照してください。
2. ターゲットのドライブが環境に合わせて構成されていることを確認します。
デフォルトでは、サーバー上の各物理ドライブは論理 RAID 0 ボリュームとして構成されます。代替構成を実装するには、次のリソースを参照してください。
 - [Oracle Server X5-2L 設置ガイド](#) の“OS インストール用のサーバードライブの構成”
 - 『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する

1. サーバーに PCIe ホストバスアダプタ (HBA) が正しく取り付けられていることを確認します。
PCIe HBA オプションの取り付けの詳細は、[Oracle Server X5-2L サービスマニュアル](#) の“PCIe カード (CRU) の保守”を参照してください。
2. **Storage Area Network (SAN)** をインストールおよび構成して、サーバー上のホストでストレージデバイスが認識されるようにします。

手順については、ファイバチャネル HBA に付属のドキュメントを参照してください。

Oracle VM のインストール

このセクションでは、Oracle VM をサーバーにインストールする手順について説明します。

説明	リンク
インストール前の要件。	27 ページの「準備作業」
Oracle System Assistant を使用した Oracle VM のインストール。	28 ページの「Oracle System Assistant を使用した Oracle VM Server の単一システムへのインストール」
メディアを使用した単一サーバーへの Oracle VM ソフトウェアのインストール。	33 ページの「メディアを使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール」
インストール後のタスクの実行。	37 ページの「Oracle VM Server のインストール後のタスク」

準備作業

次の要件が満たされていることを確認します。

- ブート環境を準備していること。詳細は、[on page 15“ブート環境の準備”](#)を参照してください。
- ホストコンソールにアクセスできること。詳細は、[on page 20“ホストコンソールへのアクセス”](#)を参照してください。
- ブートメディアを準備していること。詳細は、[on page 21“ブートメディアの準備”](#)を参照してください。
- インストール先を選択しており、それが正しく設置されていることを確認していること。詳細は、[on page 23“インストール先の準備”](#)を参照してください。
- 静的 IP アドレスを保持する次の 2 つのシステムが設定されていること。
 - Oracle VM Server をインストールするための 1 つのシステム。
 - 次のいずれかを備えた Oracle VM Manager のための 1 つのシステム。
 - Oracle Linux 5 Update 5、64 ビット以降のリリース
 - Oracle Linux 6、64 ビット以降のリリース
 - Red Hat Enterprise Linux 5 Update 5、64 ビット以降のリリース
 - Red Hat Enterprise Linux 6、64 ビット以降のリリース

- 『Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.3)』 (http://docs.oracle.com/cd/E50245_01/index.html) にあるその他のインストール前のタスクと要件を確認していること。
- Oracle VM のインストールドキュメントにアクセスできること。Oracle VM 3.3 のドキュメントライブラリは、http://docs.oracle.com/cd/E50245_01/index.html で入手できます。

Oracle System Assistant を使用した Oracle VM Server の単一システムへのインストール

Oracle System Assistant の「Install OS」タスクは、Oracle VM Server をインストールするための推奨される方法です。

- [28 ページの「Oracle System Assistant を使用して Oracle VM Server をインストールする」](#)

▼ Oracle System Assistant を使用して Oracle VM Server をインストールする

開始する前に、[27 ページの「準備作業」](#)にあるインストールの前提条件を確認してください。

1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。
手順については、[on page 21“ブートメディアの準備”](#)を参照してください。
2. Oracle System Assistant を Oracle ILOM Web インタフェースから直接起動する (推奨) には、次の手順を実行します。それ以外の場合は、次の手順に進みます。
 - a. サーバーのネットワーク管理ポート (NET MGT) へのネットワークアクセスを備えたりリモートシステム上で、Web ブラウザを開きます。
 - b. アドレスバーにサーバーのサービスプロセッサの IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
 - c. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。

「Oracle ILOM Summary Information」ページが表示されます。

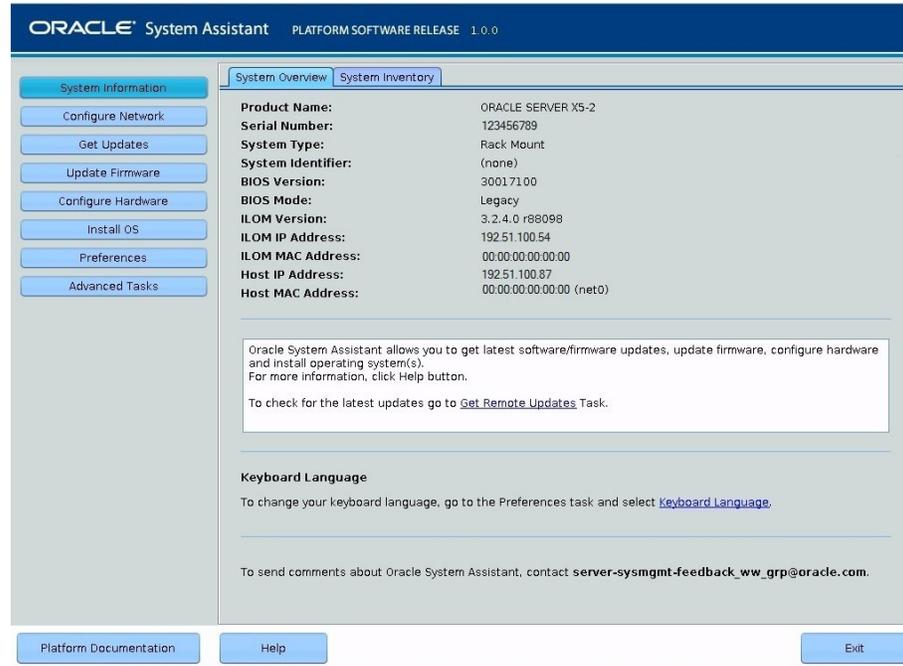
The screenshot shows the Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) interface. The top navigation bar includes 'ORACLE Integrated Lights Out Manager v3.2.4.0', 'About', 'Refresh', and 'Logout'. The user is logged in as 'root' with the role 'auro' on the host 'ORACLESP-1404NM101B'. The left sidebar shows a navigation menu with 'Summary' selected. The main content area is titled 'Summary Information' and contains the following sections:

- General Information:** A table listing system details such as System Type (Rack Mount), Model (ORACLE SERVER X5-2), QPart ID (Q0000), Part Number (X5-2), Serial Number (1404NM101B), System Identifier (-), System Firmware Version (3.2.4.0), Primary Operating System (Not Available), Host Primary MAC Address (00:00:00:00:00:00), ILOM Address (192.0.2.100), and ILOM MAC Address (00:00:00:00:00:00).
- Actions:** A panel with controls for Power State (ON/OFF), Locator Indicator (OFF), Oracle System Assistant (Version: 1.0.0.82780), System Firmware Update, and Remote Console, each with a corresponding 'Launch' or 'Turn On/Off' button.
- Status:** A table showing the overall status as 'Service Required' with a total problem count of 3. The table lists subsystems and their details:

Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	Service Required	Processor Architecture: x86 64-bit Processor Summary: Two Intel Xeon Processor E5 V3 Series	Processors: 2 / 2 (Installed / Maximum)
Memory	OK	Installed RAM Size: 16 GB	DIMMs: 2 / 24 (Installed / Maximum)
Power	OK	Permitted Power Consumption: 606 watts Actual Power Consumption: 157 watts	PSUs: 2 / 2 (Installed / Maximum)
Cooling	OK	Inlet Air Temperature: 21 °C Exhaust Air Temperature: 36 °C	Chassis Fans: 16 / 16 (Installed / Maximum) PSU Fans: Not Supported
Storage	Not Available	Installed Disk Size: Not Available Disk Controllers: Not Available	Internal Disks: 4 / 8 (Installed / Maximum)

- d. 「Oracle ILOM Summary Information」ページの「Actions」パネルで、「Oracle System Assistant Launch」ボタンをクリックします。

「Oracle System Assistant System Overview」画面が表示されます。



e. **ステップ 4**に進みます。

3. **Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスと BIOS を使用して Oracle System Assistant を起動するには、次の手順を実行します。**

a. 「Oracle ILOM Summary Information」ページから、「Remote Console Launch」ボタンをクリックします。

「Oracle ILOM Remote System Console Plus」ウィンドウが表示されます。

b. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切った後、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。

- **Oracle ILOM コマンド行インタフェースから、「reset /System」と入力します。**

サーバーがブートプロセスを開始し、「Oracle ILOM Remote System Console Plus」ウィンドウに BIOS 画面が表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。これらのメッセージは画面に表示される時間が短いため、注意してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

- c. **F9 キーを押します。**

「Oracle System Assistant System Overview」画面が表示されます。

4. **ナビゲーションペインで、「Get Updates」をクリックして Oracle System Assistant ソフトウェアを更新します。**

このアクションにより、オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、サーバーに最新のソフトウェアリリースパッケージが確実にインストールされます。

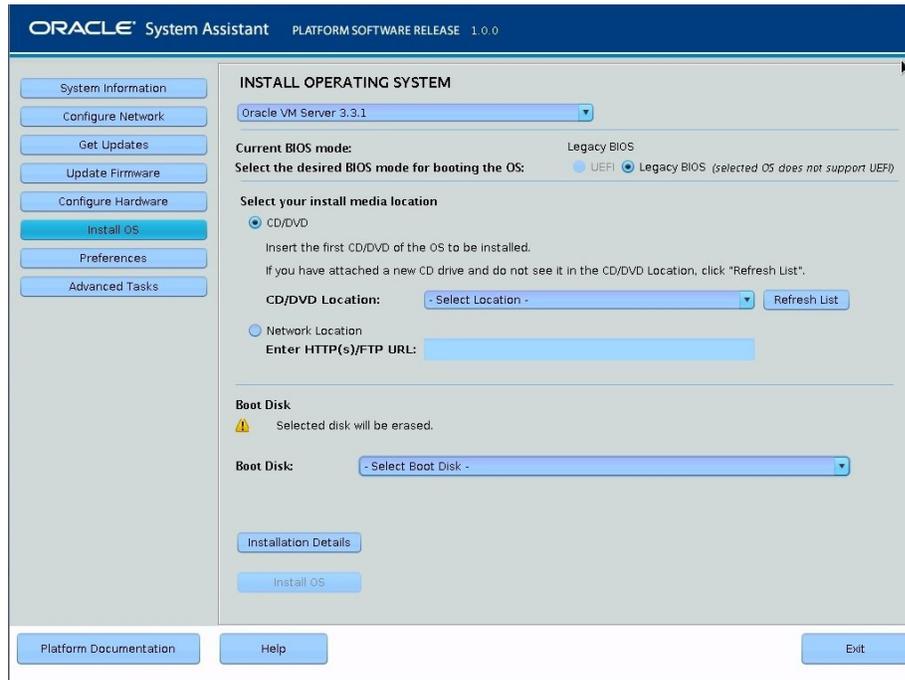
注記 - Oracle System Assistant のリモート更新にアクセスするには、サーバーの Web アクセスが必要です。

5. **「Update Firmware」をクリックしてサーバーのファームウェアを更新します。**

このアクションにより、オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、サーバーのファームウェアおよび BIOS が確実に最新のものになります。

6. **「Install OS」ボタンをクリックして Oracle VM Server をインストールします。**

「Install Operating System」画面が表示されます。



7. 「Supported OS」ドロップダウンリストから、「Oracle VM Server」を選択します。
8. 画面の「Select Your Install Media Location」セクションで、インストールメディアの場所を選択します。
これは、インストール CD/DVD または ISO インストールイメージの場所です。

注記 - Oracle System Assistant は、PXE (Preboot eXecution Environment) インストールをサポートしません。Oracle VM Server の PXE インストールを実行するには、http://docs.oracle.com/cd/E50245_01/index.html にある Oracle VM Server のドキュメントを参照してください。

9. 画面の「Boot Disk」部分で、インストール先を選択します。
10. 「Installation Details」をクリックします。
「Installation Details」ダイアログボックスが表示されます。

11. 「Installation Details」ダイアログで、インストールしない項目をすべて選択解除します。

注記 - 「Oracle VM」および「Drivers」オプションは必須であり、選択解除できません。

12. 「Install Operating System」画面の最下部にある「Install OS」ボタンをクリックします。
13. ブートデバイスの選択を確認するには、「Yes」をクリックします。
ブートデバイスを変更するには、「No」をクリックして別のデバイスを選択します。
14. プロンプトに従ってインストールを完了します。
サーバーがブートします。

メディアを使用した、単一システムへの Oracle VM のインストール

このセクションでは、x86 (64 ビット) 用の Oracle VM 3.3 ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

- [33 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle VM をインストールする」](#)

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle VM をインストールする

開始する前に、[27 ページの「準備作業」](#)にあるインストールの前提条件を確認してください。

1. ホストコンソールにアクセスします。
手順については、[on page 20“ホストコンソールへのアクセス”](#)を参照してください。
2. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。
手順については、[on page 21“ブートメディアの準備”](#)を参照してください。
3. サーバーの電源を入れるか、リセットします。

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **Oracle ILOM コマンド行インタフェースから**、「reset /System」と入力します。

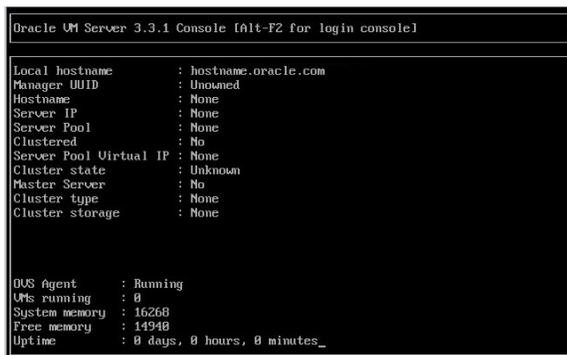
サーバーがブートプロセスを開始します。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。これらのメッセージは画面に表示される時間が短いため、注意してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

4. **BIOS 画面で F8 キーを押して、Oracle VM のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。**
「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。
5. **「Please Select Boot Device」メニューで、ブートデバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。**
「Boot Device」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。

数秒後、Oracle VM のスプラッシュ画面が表示されます。



6. **Enter** キーを押してインストールを開始します。

キーを押さなければ、1分後にインストーラが自動的に起動します。インストーラはテキストモードでのみ使用できます。

7. http://docs.oracle.com/cd/E50245_01/index.html にある **Oracle VM** インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.3) を参照してください。

Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.3) は、Oracle VM をインストールするための詳細な手順を提供します。

8. 画面上のプロンプトに従って、**Oracle VM** および **Oracle VM Agent** をインストールします。

9. 画面上のプロンプトに従っていくと、「Partitioning Type」画面が表示されます。



注記 - 次の手順は Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.3) (http://docs.oracle.com/cd/E50245_01/index.html) で説明されていますが、Oracle VM Server のインストール先のドライブを選択するときに注意が必要なため、ここに含まれています。

10. 「Partitioning Type」画面で、次の手順を実行します。

a. 次のいずれかのパーティションレイアウトを選択します。

- ドライブ全体を使用する
- Replace existing Linux system
- Use free space

b. インストールで使用するドライブを選択します。



Caution - 「Partitioning Type」画面で、Oracle SSM ドライブは Oracle System Assistant USB フラッシュドライブになります。このドライブを表示するために、画面下部までスクロールすることが必要な場合があります。Oracle SSM ドライブは、決してソフトウェアインストールドライブとして選択しないでください。Oracle VM Server を Oracle SSM ドライブにインストールすると、Oracle System Assistant ソフトウェアが上書きされ、Oracle System Assistant の復元が必要になります。Oracle System Assistant の復元手順については、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

c. 「OK」を選択してインストールを続行します。

11. インストールを完了するには、Oracle VM のインストールドキュメントを参照し、手順に従ってください。

http://docs.oracle.com/cd/E50245_01/index.html にある『Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.3)』を参照してください。

注記 - Oracle VM のインストールには 2 つのパスワードが必要です。1 つは Oracle VM Server の root アカウント用、もう 1 つは Oracle VM エージェント用のパスワードです。

12. Oracle VM Server と Oracle VM Agent のインストールを完了したら、次のいずれかを実行します。

- Oracle VM を管理するために Oracle VM Manager が構成されていない場合は、37 ページの「Oracle VM Server のインストール後のタスク」に進む前にそれをインストールする必要があります。

Oracle VM Manager をインストールする手順については、http://docs.oracle.com/cd/E50245_01/index.htmlにある『Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.3)』を参照してください。

- Oracle VM を管理するためにすでに Oracle VM Manager が構成されている場合は、37 ページの「Oracle VM Server のインストール後のタスク」に進みます。

Oracle VM Server のインストール後のタスク

Oracle VM ソフトウェアのインストールを完了したら、次のインストール後のタスクを確認し、必要に応じて、使用しているシステムに該当するタスクを実行します。

- 37 ページの「Oracle VM ソフトウェアを更新する」
- 37 ページの「Oracle VM のリソースを管理する」

Oracle VM ソフトウェアを更新する

Oracle VM のインストールメディアには、最新バージョンのソフトウェアが含まれていない場合があります。必要に応じて、最新のアップデートを使用して Oracle VM ソフトウェアを更新します。ダウンロード手順については、この Web サイトを参照してください。

<http://edelivery.oracle.com/oraclevm>

Oracle VM のリソースを管理する

Oracle VM のリソースの構成、アクセス、および管理を行う方法については、次の場所にある Oracle VM 3.3 のドキュメントライブラリを参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E50245_01/index.html

ネットワークインタフェースの構成

このセクションでは、サーバー上のネットワークコネクタについて説明します。

- [39 ページの「NIC コネクタ」](#)

NIC コネクタ

サーバーのネットワークインタフェースカードのコネクタには、次のように物理的にラベルが付けられています。

表 1 NIC コネクタのラベル

NIC コネクタのラベル	インタフェースタイプ
NET0	第 1 インタフェース (ixgbe 0)
NET1	第 2 インタフェース (ixgbe 1)
NET2	第 3 インタフェース (ixgbe 2)
NET3	第 4 インタフェース (ixgbe 3)

注記 - 単一プロセッサシステムでは、Ethernet ポート NET 2 および NET 3 は機能しません。

索引

あ

- 一時ブートデバイス
指定, 34
- インストール
 - Oracle System Assistant の使用, 28
 - インストールメディアの使用, 33
 - 概要, 9
 - タスクマップ, 9
- インストールオプション, 11
 - 単一サーバー, 12
- インストール後のタスク
 - Oracle VM, 37
- インストール先
 - オプション, 23
 - 準備, 23
 - ファイバチャネル Storage Area Network (SAN) デバイス, 24
 - ローカルストレージドライブ, 24
- インストールの前提条件, 27
- インストール方法
 - Oracle System Assistant の使用, 12
 - 手動, 13

か

- 構成
 - ネットワークインタフェースカード
 - Oracle VM, 39

さ

- サーバーの電源のリセット, 33
- サポートされているソフトウェアバージョン, 10
- ソフトウェアの更新
 - Oracle VM, 37

た

- タスクマップ, 9
- ドキュメント
 - Oracle VM, 37
 - サーバー, 10

な

- ネットワークインタフェースカード
 - 構成
 - Oracle VM, 39
 - ラベル付けとタイプ
 - Oracle VM, 39
 - ネットワークインタフェース構成, 39

は

- ブートデバイスメニュー
 - 選択, 34
- ブートメディア
 - 準備, 21
- ブートモード
 - 変更, 17
- ホストコンソール
 - 表示, 20

ら

- リモートコンソール
 - 設定, 20
- リモートブートメディア
 - 設定, 22
- ローカルコンソール
 - 設定, 20
- ローカルブートメディア

設定, 21

B

BIOS

ブートモードの変更, 17

I

ISO イメージ

VMware ESXi, 33

ISO イメージからのブート, 33

O

Oracle System Assistant

USB フラッシュドライブに関する注意, 23, 36

Oracle VM

インストール後のタスク, 37

ソフトウェアの更新, 37

ドキュメント, 37

ネットワークインタフェースの構成, 39

Oracle VM Server

インストールオプション, 11

サポートされているソフトウェアバージョン,
10

R

RAID ボリューム

インストール先として, 24